鴨川アクションプランフォローアップ委員会の議事概要

■開催日時　平成 22 年 2 月 4 日（木）　10:00～11:30

■場　　所　ルビノ京都堀川２階「ひえいの間」

■出 席 者　委員９名（敬称略、五十音順、委員長は◎）

丘　眞奈美　（歴史ｼﾞｬｰﾅﾘｽﾄ、放送作家）
勝矢　淳雄　（京都産業大学教授）
川﨑　雅史　（京都大学大学院教授）
金田　章裕　（京都大学名誉教授）
戸田　圭一　（京都大学防災研究所教授）
◎中川　博次　（京都大学名誉教授）
町田　玲子　（京都府立大学名誉教授）
水野　歌夕　（写真家）
吉村　真由美（森林総合研究所主任研究員）

報　　道　１社
一般傍聴　１名

■資料

資料①：鴨川・高野川における工事実施状況
資料②：鴨川公共空間整備プランの基本的な考え方
資料③：「鴨川下流整備に係るシンポジウム」について
資料④：鴨川における自然環境等の取りまとめ方策について－あるべき姿を目指して－

■結果

- 本年度は、順調に進んでいるとの評価を得られた
- しかし本格的な事業はこれからであり、鴨川府民会議も含めた府民ニーズを把握するシステムを定着させていくこと
- 事業の進捗に伴って新たな問題も発生してくることも想定され、引き続いてこのシステムを使って丁寧に進めること

■議事（主な発言内容）

○平成 21 年度の鴨川河川整備状況について

（委員）

鴨川府民会議の座長として。中州の除去については試行的に行うということで皆さん了解していると思うので、この方法で決めたということではない、ということを確認したい。

（事務局）

説明不足だったかもしれないが、試行的に進めていくつもりである。

（委員）

ＰＤＣＡの具体的な方法を教えてほしい。

（事務局）

自然の力で健全な土砂移動を促すのが目的なので、そういった観点で施工前後の状況をモニタリングしながら、また住民の意見も聞きながら進めていきたい。公共空間整備についても同様にＰＤＣＡのサイクルで進めていきたい。

（委員）

行動計画（案）に示されている測量のスケジュールについて教えてほしい

（事務局）

河川改修に関わる七条より下流の範囲は、今年度全て発注している。

（委員）

中州除去の期間を教えてほしい。

（事務局）

二条より下流は、本年度と来年度工事の予定。二条より上流は高野川を含めて 10 年サイクルで一巡する予定である。除去の方法については試行錯誤しながら進めていく。

○鴨川公共空間整備プランの基本的な考え方

（委員）

P8 の学生服というとは詰襟を連想するので、持ち物など言葉を変えたほうが良いのではないか。また、アダプトについて具体的な考えを持っているのか。樹木管理の部分も考えているのか。

（事務局）

具体的な方法はまだ考えていないが、計画から植栽、管理までを検討していきたい。

（委員）

アダプトは、住民の意識を高めるため大切である。ただ、多くの事例では、その後どうなっていったのか検証が行われていないため、事後検証を行ってほしい。

（委員）

利用実態調査の結果には、当日の天気も明記しておく方が良い。

（委員）

堀川合流部で木橋を作るのであれば、北山杉など、京都の木材や間伐材を使ってほしい。

（事務局）

耐久性や維持管理の問題もあるので、設計の段階では相談にのって頂きたい。

（委員）

利用実態調査結果は重要な資料である。自転車利用が多いため、下流を整備するに当たっては、憩いの場と自転車との住み分けや遊歩道の位置づけ等を合わせて考えてほしい。

（事務局）

高水敷が連続化すると利用形態が変化すると予測される。事後をしっかりと調査把握していきたい。

（委員）

イラスト図の様な距離標は、高齢者がつまずくのではないか。

（事務局）

今回の資料はイメージ。つまずきを含めた安全性を考慮しつつ、鴨川らしさを踏まえた控えめなデザインとしたい。ただし下流については、もう少し強調しても良いと考えている。

（委員）

河川敷と沿川施設との接続について、基本的な考え方を整理するべきではないか。

（事務局）

川へのアクセス路は、例えば公園との一体化等も含めて、安全性に配慮しつつ、地元や京都市のまちづくりと協議しながら進めていきたい。

（委員）

P3　阪神高速道路の話しで変更できないかもしれないが、歩行者道の幅や植樹帯の位置など、少し見直した方が良いのではないか。

P4　石積みが高くなって圧迫感が出るのではないか。できる限り低くした方が良い。

P5　堀川沿いの公園へ繋ぐ階段は長くしてベンチ兼用としてはどうか。堀川のコンクリート護岸も合わせて改修してはどうか。

P6　道路用地との一体化とあるが、管理用道路としての機能が必要なので事実上無理ではないか。

（事務局）

P6　この道路用地は管理用道路ではないと思われる。

P5　堀川については検討をしていきたい。

P4　石積みの圧迫感については考慮する必要があるが、この区間に関しては高速道路や陸運局が隣接しているため、特に問題は無いと考えている。

○「鴨川下流整備に係るシンポジウム」について

○鴨川における自然環境等のあるべき姿について

（委員）

自転車協会等に、スピードを出さない工夫などの相談をしてはどうか。

（委員）

情報を適格に把握し、発信していくことに心がけてほしい。

■講評

（委員）

色々な方の意見を積極的に聞いていけばより良いものになると思う。中州についても基本的にはこの方法で良いと思う。

（委員）

この様な形で色々な計画や方向性について議論して頂くことは重要なこと。一方で、府民会議へもできるだけ丁寧に情報を提供し、意見を聞いていくシステムをうまく回していく必要がある。

（委員）

定量的な利用実態が分かって良かった。量的なものに加えて、定性的な意見なども積極的に取り込まないといけないと感じた

（委員）

各事項についてこのように考えて頂いていることはありがたい。中州除去における毎年の工事は、できる限り短い期間で行ってほしい。

（委員）

鴨川は人々との関わりが大切。周辺住民との協働やまちづくりとの関わりをどうしていくか、ということを詰めていけるとありがたい。

（委員）

連続する空間と滞在できる空間が実現されると、京都の文化軸となり、まちが活性化していく。一方、利用・管理・マナー等のソフト面がしっかりしていないと機能しない。防災面の対応も重要。自転車道のあり方については、河川区域外も含めて調整して頂きたい。

（委員）

フォローしていくなど非常に丁寧に仕事していると思う。中州の除去などは、できるだけ記録を残していってほしい。

（委員）

中州除去によって、水の流れが復活され、景観も復旧していくと期待している。

（委員長）

今日のところは、皆さんから高い評価が得られたと言える。事業はこれからなので、システムを定着させて、モニタリング、評価などフォローアップを行っていってほしい。事業の進捗に伴って新たな問題も発生してくるため、その際には皆さんのお知恵を拝借したいと思う。